

令和3年11月19日
(2021年)

保護者の皆様

吹田市立山田中学校
校長 酒井 睦美

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度、5月に3年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は、国語・数学の2教科で実施されました。調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の参考にしていただきますようお願い申し上げます。

1 教科に関する調査結果の分析

【 国 語 】

《概要》

出題された14問に対し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」の全領域において平均正答率が大阪府及び全国値を上回っている。特に「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」に関しては、全国平均を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・「質問の意図を捉える」ことは、全国値を上回っているが、「話し合いの話題や方向を捉える」は、全国平均正答率との差が小さく、課題がある。

書くこと

- ・全ての設問において、全国値を上回っている。

読むこと

- ・「文脈の中における語句の意味を理解する」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことについては、全国値を下回っており、課題がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・全ての設問において、全国値を上回っている。
- ・「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」ことは、全国値を大きく上回っている。

《国語科における成果と今後の改善点について》

今回の調査では、生徒の日ごろの努力と学習成果が結果として現れた。授業においては、今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点から、グループワーク等を取り入れた《話し合い活動》や《自分の考えを、伝え方を工夫しながら発表できる取り組み》を継続して進めていく必要がある。グループワークを取り入れた授業や発表等をさらに充実発展させ、生徒の力をより一層高めていくよう努めていきたい。

課題として明らかとなった「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことについては、授業の中で教科書の内容や新聞等を活用したグループワーク・発表等を行って確実な定着に努めていきたい。

【 数 学 】

《概要》

出題された16問に対し、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全領域において平均正答率が大阪府及び全国値を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

- ・「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる」ことは、全国値を大きく上回っている。

図形

- ・「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。

関数

- ・「関数の意味を理解している」ことは、全国値を大きく上回っている。
- ・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」ことについては、全国値を大きく上回っているものの課題がある。

資料の活用

- ・「相対度数の必要性と意味を理解している」ことについては全国値を大きく上回っているものの課題がある。
- ・「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことは全国値を大きく上回っている。

《数学科における成果と今後の改善点について》

今回の調査結果では、正答率から生徒の学習に対する日ごろの努力と習熟度別指導を含む少人数指導等の成果が現れた。しかし、「資料の活用」の領域についてはやや課題がある。「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことについては、全国値を上回っているものの、多くの生徒がつまずきやすい部分であり、全国と同様に無解答率も高い。また、記述式についても正答率が半数を超えていない設問もあり課題である。今後も少人数指導の特性をいかしつつ授業の中で、課題に対し自らの考えを言語化する等の場面を設定する等の機会を増やしていく必要がある。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【視点1】 規則正しい生活をし、計画的に学習に取り組む

《調査結果》

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(起きていますか)」については、全国値を上回っている。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」については、全国値をやや上回っている。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」については、全国値を上回っている。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」については、全国値を上回っている。
- ・「学校の授業以外に、1時間以上勉強している」については、全国値を上回っている。

規則正しい家庭生活を過ごし、(新型コロナウイルス感染拡大による影響もなく)学校の授業以外の家庭学習にも意欲的に取り組むことができます。家庭での落ち着いた生活が、落ち着いた学校生活にもつながっていると考えられます。

一方、「読書を全くしない」「新聞を全く読まない」と回答した生徒の割合は全国値と比べて高く、ICTを学習のために用いている割合は全国値と比べて低くなっています。学習を進めるうえで、教科書やノート、問題集を用いることは有効ですが、本や新聞を読むことやインターネット等を用いて調べることも有効です。計画的に学習に取り組む姿勢をさらに高めるため、ICTを活用した学習の充実を図るとともに、本や新聞から得られる知識・情報についても大切であることを伝えていきます。

【視点2】 自分の良さに気づき、将来の夢や目標をもつ

《調査結果》

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、全国値とほぼ変わらない。
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」については、全国値とほぼ変わらない。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」については、全国値とほぼ変わらない。
- ・「自分には良いところがあると思いますか」については、全国値を下回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」については、全国値を下回っている。

「やらなければならないこと」や「やると決めたこと」に対して、積極的に取り組む姿勢が見られます。一方、「自分の良さに気づく」「将来に向けての夢や目標を持つ」ことについては課題が見られます。引き続き、本校の今年度の重点的取組

「いってくれてよかった、いってくれてありがとう」
～ そう感じてもらえる喜びを通して自己有用感を育てる ～
～ そう素直に感謝の気持ちを伝え合える仲間づくり ～

という、心を育む教育の充実に努めていきます。